

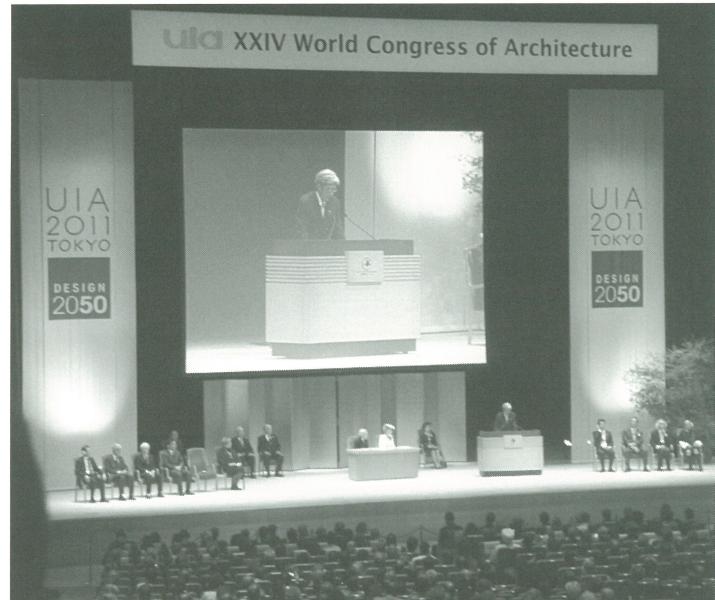
J I A NAGANO. KEN CLUB

Vol.91
2011
11.30

JIA 長野県クラブ

(社)日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/jia-naga@jeans.ocn.ne.jp>



UIA東京大会開会式



UIA東京大会開会式



2050年の建築家シンポジウム

UIA2011東京大会特集

UIA2011東京大会を終えて

26日(月)UIA2011東京大会は天皇皇后両陛下の行幸啓を賜り、東京国際フォーラム ホールAにて開会式が行なわれ、長野県クラブからは26名が参加した。Louise Cox UIA会長の肌理細やかな日本の特質に触れた挨拶を聞きながら天皇皇后両陛下の気品になぜか涙が溢れた。「Design2050-災害を克服し、一丸となって、新しい未来へ」というテーマのもとすべての人のために、より優れた、より持続可能なヒューマンな世界を築かなくてはならないという使命を持った。

27日(火)「2050年の建築家」シンポジウム:「失われた大切なものの創造的再生に向けて」は、3.11からの復興にあたって、地元の人々の要望に耳を傾けながら、雇用の場も含めた持続可能な生活環境を再生することで、創造的再生として、地域社会と地域文化を継承発展させていく必要があります。針生承一氏らの被災地からの災害復興報告があり、災害から人材バンク、復興ビジョン、次世代に繋ぐ環境をつくっていくこと等の話がありました。復興支援の枠組みに留まらず、日常のまちづくり活動の中で建築家の果たすべき責務と役割について意見交換をして「2050年の日本」の姿が見えてくるのではないか。建築家はどこへ向うのか?パラダイムシフトが見えてくるか?と問い合わせた。

パネルディスカッションはパネリストにノンフィクション作家、山岡淳一朗氏と弁護士の竹川忠芳氏そして芦原会長がコーディネートを進行した。

建築家は単にクライアントからの依頼を受けて私的な活動を行なえば良いのではなく、公共性公益性等の役割を語り社会の中で共感をよぶことが大事と述べられた。

震災後本当に大切なものは何か?というものをつきつけられて

いる。

情報量が多くなっても人間の復元力があるか?社会全体が打たれ強くなっているか。と述べられた。言葉の奥行きの深さを考えるとまさにこれからの持続可能な建築に繋がる。

原点にたちかえる大切さを述べられ日頃から自分自信が自問自答してきたことを確認できた。

また理念的なものを語る必要の大切さを述べられた。人が大事、人を法の中に入れたい。建築基準法は理念が語られていない。施主は一時的な経済行為ととらえて施主意識がないなど、基準法でしばるのでなく人を中心業務をしっかりとやることが大事と建築基本法の重要性を述べられた。

Rod Hackney氏による英国によるCAVEの運用状況報告がありました。建築・まちづくりの協議会のようなもので自分たちのまちに対してデザインレビューをするという独立した機関として、英国の美しいまちはこのように皆が努力した結果であった。

芦原会長の総括はパラダイムシフトの中で価値観がGNPからGNH(国民総幸福量)へ、経済成長から持続可能へ、マネー資本主義から環境資本主義へ、一極集中型から地域分散型へとまたこのプログラムは地球規模の環境や世界の趨勢を視野にいれつつ、地域とともにある建築家の活動の姿勢を踏まえて、日本型の次世代に向けた建築家のあり方を「建築家宣言」という形にて世界にむけて会場全体から発信、歴史に残る一員になれたことをうれしく思います。

あっという間に終了してしまったUIA東京大会でした。重複するプログラムも多く大会全体の3%も参加できたかどうか…準備を含め長い間の皆様方のご協力に心から感謝申しあげます。

片倉 隆幸

UIA2011東京大会から学ぶ

赤羽 吉人

世界110カ国・地域から5,100人の参加を得て、UIA2011東京大会は成功裏に幕を閉じました。当長野地域会からも40人を超える会員・賛助会員が参加して、国際色豊かな大会の雰囲気と格調高い多くのプログラムに接することができたことは大変意義深かったです。

イスタンブル大会で念願の大会誘致に成功して以来、6年間に亘って準備を重ねてきて、3.11の洗礼を受けたときは大会自体の開催さえ危ぶまれる状況でありましたが、そのことが却って明確な大会の方向性を打ち出すことに役立ち、大会に向けてのJIA会員の結束を強めることにも繋がりました。

私自身はJIA関東甲信越支部の大会推進委員会の委員長という立場でもありましたので、大会の成功に向けて、支部会員の大会に対する意識の高揚と参加登録促進への働きかけを重点的に行ってきましたが、JIAがJOBに約束した参加登録者数と寄付金額を達成できたことは、会員皆さんのご協力の賜と深く感謝申し上げる次第です。

失望と感動のUIA大会

松下 重雄

世界中の建築家が初めて日本に集まる大会が東京で行われました。長野地域会からも30数名の参加があり、支部推進委員長で尽力された赤羽会長へのエールとしても良かったと思います。

参加の皆様ご苦労さまでした。

実は私の感慨はもう少し違ったものがありました。UIA東京大会誘致が決まった直後の総会・懇親会席上での仙田満新会長(当時)と小倉善明前会長(当時、今回日本組織委員長)が揃って発言されたことを今も覚えているからです。

「設計入札はおそらく世界中で日本くらいしか無い。UIA東京大会まではそれを何とかしたい!!」それ以来非常に期待していましたが、今だに改善されたとは思えませんし、その取り組みが進展している気配も伝わってきません。お祭りは終わりまし

たかがUIA、されどUIA…

川上 恵一

UIA2011東京大会は国内外から目標を上回る参加者を集め、盛大のうちに幕を閉じることができました。テーマは当初の「2050年の建築を考える」から3.11の大震災を受けて変更を余儀なくされました。皆で知恵を出し合っての素早い対応はさすがJIAと言えるでしょう。われわれ長野県クラブからは片倉特別委員長を筆頭に、関係者含め64名が参加しました。特に赤羽会長が実行委員長に選ばれ先頭に立って盛り上げたことは、地域の誇りとなりました。

盛りだくさんのイベントの中、私は芦原会長の大会宣言や地域会からの活動報告等に参加し、地域の多様さを再確認しました。「一万人の世界建築家展」は自身も登録しており、会場では記念写真を撮るなど有意義な時間を過ごすことができま

素晴らしい開会式

山口 康憲

私のUIA東京大会との関わりは、仙台で行われたJIAの全国大会で本部のUIA大会の実行委員会(執行部と各支部長で構成される会)に勘違いして紛れ込んだ時から始まりましたが、批判的な意見ばかりだったその場が象徴するように開催にこぎつけるまでのその後の道のりは大変厳しいものでした。初日は裏方として参加者の誘導をしていましたが、開会式にはどうしても参加したくて開式直前に会場に入りました。

入ってまず報道陣の多さに驚き、感慨とともにいよいよ始まったと実感することができました。続いて天皇、皇后両陛下がご入場されるとその場の空気が一変したように感じ、両陛下のご臨席を賜ることで静謐で厳肅な雰囲気に満たされるというこ

UIA東京大会に参加して

丸山 幸弘

26日、朝早く眠い!間に合った。受付を済ませ会場に入る。天皇皇后様をお迎えして開会式が厳かに始まりました。やはり開会式は感動しました。しかし、大変申し訳ありませんがその後のことは懇親会まで記憶は無いです。27日、テーマセッション3「これからの環境建築を考える。」に参加した。パネラーのマドラー氏(スリランカ)の発表はスリランカの強い日差しや通風、湿度など自然を正確に捕え建築に反映している。その姿勢が驚いた物でなく自然で好感を持った。とかく建築家は傲慢で上から目線な部分があるがそれが無い。スリランカには行った事が無いが行ってみたい気になった。その後、テーマセッション4「自然と共生しうる技術とは何か」に参加した。パネラーの伊東豊雄氏の発表は興味深い物でした。今回の大災害の現地に

メタポリズムの未来都市展を見学して

甘利 享一

東京六本木の森美術館で開催されている「メタポリズムの未来都市展」を9月27日に見学する運びとなつた。

メタポリズムとは、生物学用語で「新陳代謝」を意味し、1960年代から2000年頃までの、丹下健三、黒川紀章、磯崎新らを中心とする建築家たちが夢見た理想的の都市像を振り返る初の展覧会である。丹下健三が都市のスケールで建築を考えた都市デザインが原点となり、戦災復興計画(広島ピースセンター)を皮切りに未来都市への提案、黒川紀章による脱着可能なカプセルによる都市住宅(中銀カプセ

JIAの諸先輩方がUIA東京大会を建築家の職能確立を実現するための絶好の機にしたいと考えてこられたことに鑑み、「2050年の建築家を考える」シンポジウムが開催されて、日本の建築生産システムにおける建築家職能についてのパネルディスカッションが行われ、大会そのものを象徴するかのような有意義な議論が交わされたことは記憶に新しいです。

プログラムの圧巻はブータン王国ティンレー首相の基調講演でした。感動して思わず立ち上がり周囲を見ると聴衆全員がスタンディングオベーション! 熱いものがこみ上げてきて震えが止まりませんでした。

大会からは多くのことを学びました。「パラダイムシフト」と「コミュニケーション」の意味するところは我々の行方を示す羅針盤といえるかもしれません。今後はそういう大会の成果をどう日常の建築家業務やJIA活動に取り入れ生かしていくかが問われることになると思います。

新たに腰を据えてこの問題を掘り起こしてもらいたいと思わずにはいられませんでした。

さて、感動もありました。「国民総幸福量」の方が「総生産量」を比較するより大事であると唱えているアジアの小国「ブータン王国」首相ジグメ・ティンレーさんの基調講演「サステナブルな幸福な社会のための建築」を聞いた時でした。日本の着物に似た民族衣装の首相のお話が終わった瞬間、割れんばかりの拍手に続いて何とスタンディングオベーションが起きたのです。

私も思わず立ち上がっていました。時々こうした刺激で育てられてきた、とJIAを実感できた大会でもありました。

した。

事前準備では「支部、地域会の提言」において長野県の紹介ページ作成のお手伝いをしました。また日本の本来の姿を知ってもらうため、ホスト役として世界からゲストを招く「山岳都市の建築と生活」の準備を進めてきましたが、こちらは諸事情で中止となってしまいました。

総じて東京のみのお祭り騒ぎの感は否めず、引き続き地域の声もしっかりと発言していくかなければならないと気を引き締める思いでしたが、夜は有楽町の屋台に繰り出して皆で語り合う時間もあり、長野県クラブの結束と真摯に建築に取り組む姿勢を改めて確認できるよい機会となりました。

と目の当たりにしました。私の近くにいた海外からの参加者も敏感に感じ取っていましたように見受けられました。

そして、石原東京都知事は来賓としての挨拶で「建築物はその時代々々の全ての技術を網羅して出来上がるものの、その時代の「文明」を表象するものであると共に真に優れた建築はその時代の「文化」をも表象するものである。建築家は「文化」としての建築を創造しなければならない」という趣旨のことを述べられました。私は会場の参加者と報道陣の前でこの言葉をいただいたことで大会を開催したことの意義は達成されたと感じ、微力ながら大会の準備、推進に関わらせていただいたことに感謝した瞬間でした。

出向きまちづくりに参加している状況や伊東氏らしい建築論と都市論を分かりやすく解説して頂き、将来展望に期待が持てる発表であった。午後は、ホールから出て丸の内の三井本館の見学会に参加した。1929年竣工、ルネッサンス様式の本館は今も高貴な空気を伝えている。また、日頃見る事ができない金庫の閥門を見る機会を得た。夕方、ホールに戻りSANAANAA妹島和世さん+西沢立衛氏の発表に参加した。ここでタイムリミット、帰郷の途に着きました。この大会の準備から運営まで携わった多くのスタッフ、会員の皆様、準備委員会の皆様、大変ご苦労様でした。また、貴重な経験をさせて頂き感謝申し上げます。

ルタワービル)の紹介、1970年の大阪万博は空間から「環境」をテーマとした様々な提案等、又万博後は、メタポリズムの建築家たちは海外で思想を形として残し実践してきた。これらのアイデアや思想は都市デザインが建築に生かされてきた。

この展示会を見学して理想を追い続け都市デザインや建築に挑戦する熱いエネルギーを感じ取ることができた。2000年代は、環境時代に向か、新時代の建築家が誕生していくことが楽しみだ。

「UIA 2011 TOKYO」に参加して

西澤 広智

9月26日、27日の二日間、「UIA 2011 TOKYO」に参加した。

一日目は、天皇皇后両陛下にご臨席いただいた開会式が、厳粛な中にも熱気に満ちた雰囲気で行われた。その後、テーマセッション1、特別講演3(ウラディミール・スラベタ)、テーマセッション2、を公聴し、その合間にみて丸の内界隈で行われている展覧会を観た。

丸ビルで行われていた「アーキニアリングデザイン展2011」「東京2050//12の都市ビジョン展」は、さまざまな模型やパネルが展示され、一般の人々の興味もそぞろ内容で、社会に開かれたUIA 2011東京大会である印象を強く持った。有名な建築作品の構造スケルトン模型等、構造・空間の美しさ独創性に改めて感動し、建築の面白さを再認識する思いであった。都市ビジョン展は、駆け足で見ただけでは、なかなか全容を把握できないスケールであり、回観後いただいた冊子を改めて見ようと思う。

一日目の最後に、公開プログラム「安藤忠雄」の講演会「テーマ：若者の語る／建築とは何か」を聞いた。安藤さんが開演前後、自らサイン会をし、ホールA、C合わせて多数の一般来場者を含め5000人を超える聴衆が会場に詰めかけた。開演の挨拶で古谷誠章さんが、UIA 2011東京大会を成功させる為に並々ならぬ思いで安藤さんがこの講演を受けて下さったと話されたが、大会関係者の努力と安藤さんの一般の人々に語る言葉の力でこれだけの人々が関心を持って参加してくれたことに驚き、この大会の盛り上がりと成功を肌で感じる瞬間であった。

安藤さんの講演の中で特に印象に残った言葉を列記する。□3.11で「自分達の心の中にあったものが全て無くなってしまった」この出来事から我々ができることは「心の中の風景を創り直すこと」□若者に対するエール：アジアの人達と一緒にやっていくこと。野生と野心が大切「建築は体験であり、教養より野生が大切」□「歴史と伝統を守ること」、「あるものを活かすこと」「心の中に希望を持つこと」が大切

2日目は、メイン会場を出て、関連プロジェクトであるイタリア文化会館で行われた

国際シンポジウム「ウフィツィと宮廷建築家 ジョルジョ・ヴォザーリ」に参加した。まず、イタリア文化会館は、皇居に面しフレームの色が物議を醸したイタリアの建築家(ガエ・アウレンティ)が設計し鹿島建設が施工した建物であるが、私の印象としては、緑豊かな皇居の景観に非常に映える美しい色と感じた。この辺が、景観条例等では、無彩色・茶色を基本とする等となってしまい、こういった微妙な感性を必要とする良い色を締め出してしまう弊害を感じる。

フィレンツェは大学時代に訪れて以来一度も行っていないが、サンタマリア大聖堂や、ウフィツィ美術館、ヴェッキオ橋等の印象は強く、こんな機会にイタリアの文化に触れてみようとこのシンポジウムに参加した。ウフィツィは初代トスカーナ大公コジモ1世の治世下、ジョルジョ・ヴォザーリの設計で1560年に着工し、1580年に竣工したフィレンツェの行政機関の事務所がもとになっていること。コジモ1世が当時あちこちに分かれていたフィレンツェの官庁をひとつの建物に収めさせたもので、建設時には周辺の一区画をすべて取り壊して建築が行われたこと。さらに、各プレセンターから最近の研究成果も含め、大変興味深い話を聞くことができた。

現在とは政治・社会情勢が違うとは言え、古いものを活かしながら、新しい空間を生み出した「ジョルジョ・ヴォザーリ」の建築家としての仕事は、現在の我々の期待される職能に通じるものを感じた。

最後に、この合間に上野まで行き、東海支部が頑張っている千人茶会にも行った。東京国立博物館の裏にこんな茶室があることを知らなかった。九条館、応挙館、六窓庵、転合庵等を見学することができ、「応挙館」では、UIA 2011 TOKYOで訪れた、JIAの仲間、そして、海外から来られた方々とお茶を一服いただけて大変貴重で豊かな時を過ごすことができた。

とても二日では、大会のほんの一部を観ただけであり、もっともっと見所があったと思うが、自分なりに有意義な大会であった。

基調講演クリストに参加して

小川原 吉宏

徹夜明けの早朝長野を出発し開会式からの参加。

オープニングの基調講演はラッピングアーティストと称されるクリスト氏。1991年茨城県常陸太田市・里美村のアンブレラプロジェクトを体験した記憶が甦り楽しみにしていた講演です。

仮設的で大規模なインスタレーションは、プロジェクトの完成を予想したドローイングやコラージュ作品など、クリストの手によるオリジナル・アート作品による販売収入か

ら実現されています。クリスト氏の人間力は、アートか否かの問題よりそのプロセスに誰にも真似出来ないパワーを感じました。目的は異なりますが、そのプロセスは建築と重なります。今回講演で解説された近年の巨大化した商業的で圧倒的なラッピングプロジェクトよりも、20年前の素朴な田舎風景の中に無数に点在するアンブレラプロジェクトの方が、私にとっては刺激的でしきりくるプロジェクトに思いました。いまだ衰えを知らない76歳クリスト氏のオーラあふれる基調講演でした。

「命、食糧、住まい、エネルギー」

林 隆

9月27午前に行われたシンポジウム「2050年の建築家を考える」は強く印象に残りました。その中のパネルディスカッションは、パネリストとして山岡淳一郎氏(ノンフィクション作家)と竹川忠芳氏(弁護士)、コーディネーターは芦原太郎会長。

①復興について、山岡氏から「今回の震災は何をつつけたか。それは本当に大切な物は何かを考えさせられたことで、命・食糧・住まい・エネルギーである。社会資産として捉るために集団規定を地域によって考えることも必要ではないか。」竹川氏からは「目先の経済活動だけでなく人間の復興も。何よりも人間ありき。」

②建築家の役割として、建築基本法の検討に参加している立場から竹川氏より、「現行基準法は戦後にできた技術法であり精神と理念が欠けている。施主像の変

遷を法で対応すべきではないか。」③団体へのアドバイスとして山岡氏から、「信頼できる専門家として3点、力量(建築家として)、説明(言葉が市民に届くか)、公正さ(眞実を語ってくれる)が大事。」④英国で1999年から行われているCABE(専門家を活用する建築許可制度)も紹介されました。独立している機関ということが重要で、意見という形の前向きな批判は受け入れられるのでしょうか。

最後に建築家宣言が行われ、私達建築家は公益に寄与すること、日本建築家協会は公益を保護することというふたつの柱。このシンポジウムを通じて日々の実務に取り組む姿勢を改めて考えさせられ、明日からの指針として受け止める事ができる貴重な3時間でした。

千人茶会に参加して

吉川 一久

東京国立博物館には六窓庵、転合庵、春草廬それに広間の九条館、応挙館と五つの茶室がある。今回の茶会ではその全ての茶室を開放し千人の客を招く催で秀吉が生きていたらおぬしらバクったなといいそうな趣向です。

開催時間前から多くの方が行列を作り10時からの1席目はすぐに札止めとなりました。和服の方や海外からおいでグループも目立ちました。私たちは2席目の札をいただき時間まで茶室の併む園内をゆっくりと散策することにしました。博物館本館を木々の間に垣間見ながら遊歩道を奥に進むと池に寄り添う様に転合庵が有ります。小堀遠州が京都伏見に建てた建築の移築です。2層台目向切席と4層半座敷からなります。そこで池を眺めながら野点を頂きました。

続いて隣接する六窓庵この席は奈良興福寺慈眼院から移築されたもの3層台

目の席です。寄付や腰掛けとうは明治の仕事とのこと。部材の繊細さと軒の低さに感心させられました。奥に回り込んで春草廬を見せて頂きました。江戸の初めの作ですが幾度も移築され最後(?)に上野に来た休憩所です。今回は接待側の休憩や荷物置き場としても使われていました。5層と3層の座敷は公開され中に上げて頂きました。応挙館の応挙の襖絵と九条館の狩野派の床張付けの絵は障子を締めた点前なので中を見ることはできませんでした。

今回の茶菓子は全国から銘菓を寄贈して頂いたとのこと。

茶を点ててくださった表千家の多くの方の裏方の方また通訳の方等たくさんの人々に支えられたイベントでした。

茶会の後はなんだかとてもリッチな気分で東京国際フォーラムへ向かいました。

オープン・アーキテクチャー「三井本館見学」に参加して

藤松 幹雄

赤羽会長、片倉さん、UIA 大会特別委員会の皆様、お疲れ様でした。たぶん一生に一度の参加だと思い、準備されたレールに乗っかり楽しませていただきました。幾つものテーマセッションや講演会の中、1つくらい建築の空間を体験したいと思い日本橋にある国的重要文化財「三井本館の見学会」に参加しました。関東大震災後1929年「復興建築のシンボル」として竣工した建築です。アメリカの設計・施工技術を駆使して建てられたそうです。4階まで貫く巨大なコリント式列柱が並ぶ外観のみならず、内部の営業室は大理石がふんだんに使用された市松模様の床や、綿

密に彩色された天井はクラシックな意匠で压巻でした。この一角は他に東京都指定歴史的建造物である三越本店が向かい合い、日本銀行も隣り合わせるなど横綱級の近代化遺産が建ち並ぶ区域です。2006年併設して高層の三井タワーが建てられましたが、重要文化財指定の建物は公開空地とみなす東京都の「重要文化財特別型特定街区制度」を適用し保存されました。来年の3月には東京駅も姿を現す予定で歴史的な景観が楽しめる事でしょう。

SANAA特別講演、アルヴァロ・シザUIAゴールドメダル記念講演

広瀬 裕

UIA2011東京大会、二日目で帰った方も多いようなので、二日目の夕方のプログラムから。

SANAAの特別講演はさすがに今をときめくスター建築ユニットとあって、学生も多く会場はほぼいっぱい。「環境と建築」をテーマにした講演でしたが、近作を順に紹介する内容で、とともに軽い存在感をもつ建物ということもあり、環境を映し込んだり、透かしたりすることによる周囲の環境との協調を語っていました。

お二人はさすがに講演慣れしているのでしょうか、全くかぶることなく交互に淡々と説明し、時間ぴったりで終わり、淡々と退場されました。(笑)

UIAゴールドメダルを受賞したシザの記念講演は授賞式の後の遅い時間からであり、また講演があること自体知らない人も多かったようで、空席が目立ち、半数が

海外からのゲストだったと思います。今年コンペで勝利したアルハン布拉宮殿の新レセプション施設のプロジェクトの紹介で、配置計画からプランニング、動線など図面ごとに丁寧に説明してくれました。まるでクライアントへの説明みたいに。とはいって、シザは私が最もリスペクトする建築家の一人。生で見ただけでも大感激、これだけでUIAに出た甲斐がありました。最後にUIA会長ルーズコックの授賞式でのシザの講評から。

「アルヴァロ・シザの作品はどんなカテゴリーにも属さない。彼の作品と認識はできるが、それぞれの建物は異なっている。彼の建物を同じように複製することはできないが常に若い建築家の模範になる。彼の活動は流行に左右されることなく、1975年以降の『建築家』として職責に立ち向かう不断の挑戦をしながら21世紀へ続いている。」

東京国際フォーラム施設見学に参加して

倉田 政人

街歩きツアープログラム:東京国際フォーラム施設見学に参加しました。

大会主会場である施設を実際に観て、空間を感じ強烈な印象を受けました。

建物は日本で唯一UIA国際認定コンペによって建築され1997年に竣工後15年が経過するものでした。ガイドには建築当時スタッフとして勤められた方がつき、設計から竣工までのエピソードを交え案内を伺いました。

特にガラス棟(メインエントランスのアトリウム)は、圧倒的な透明感に地階から最

上階まで吹き抜ける大空間が印象的でした。露出するフレームが力強くも華奢で細部まで繊細さを感じる機能美とデザインから、建築への情熱を感じる建物でした。

この機会に大会へ参加できたことは、ルーズコックUIA会長の言葉にもありましたが、今までにない刺激を受け今後の設計と建設活動に役立つ良い経験ができました。

ありがとうございました。

UIA2011東京大会に参加して

長島 三夫

何年もかかって実現に至った東京大会、誘致から運営まで携わった方々は自分の仕事も顧みず奔走して来た事でしょう。準備を重ねて最終段階になった時に起きた東日本大震災で開催も危ぶまれ、方向性を変えざるを得なくなった事は大きなハードルとなり、それを乗り越えての実現に、私たち会員は驚嘆と感謝でいっぱいです。

長野県クラブにおいても2年前から準備を重ねた長野ツアーが最終段階で中止という選択をせざるを得なくなり、UIA準備委員会のメンバーの努力も徒労に終わりましたが、この大会の意義を再度確認する機会もありました。仕事を追いやり中心で働いた片倉委員長は特に思うものがあったかと思思います。お疲様でした。そして、関東甲信越支部で腕を振るった赤羽会長も多くのわがままな会員を率いて、

大会当日は裏役に徹しイベントやセレモニーにも参加することなく動き回っていた姿は、長野県クラブの誇りとも思えます。ほんとうにお疲れ様でした。

大会自身は自分が思っていたものより、遥かに大きな規模で驚きました。東京都の協力も大きく、いたるところでUIA大会のイベントを行っていて、私たち地方で建築に携わっている者より関心が大きいと感じた次第です。インターネット等で情報の伝達は早く多く行われるようになりましたが、文化はその場に参加しなければ伝わらない事を多く感じました。この大会を通じ、多くの仲間と接する事ができ懇親も深められる事ができ長野県クラブの会員として実感する事ができました。関係者のみなさん、ありがとうございました。

UIA2011東京大会で感じたこと

勝山 敏雄

所用で2日目で長野に戻らなければならなくなってしまったことが残念でなりません。多くのプログラムのうちわずかなプログラムしか参加できませんでした。開会式・クリストの基調講演・国際フォーラムの見学ツアー・2050年建築家シンポジウム・テーマセッション・コミュニティーアーキテクツシンポジウム等に参加しました。国際シンポジウムの雰囲気を肌で感じることができたことは本当に良かったと思います。長野とい

う日本のある地域で暮らす自分にとって、どのような意識を持って建築に携わるべきかを考えさせられました。建築やまちが日々の生活や地域のコミュニティを支える社会資産として如何に大切な物であるかを認識し、ひとつの地域にいながら常にグローバルな視点を忘れず行動し、かつて地域の人々や行政、様々な専門家との連携を取りながら対話を通して活動していくかなければならないと感じました。

“UIA2011東京大会”に参加して

(株)角藤 長野本部 長澤 和芳

9月27日、ホールCで開かれたパネルディスカッションを聞いて感じた事を述べたいと思います。3.11からの復興にあたって、建築家のみなさん、我々賛助会員…全ての建築に携わっている者が「まちづくり再生に向けて」何をすべきか!!大きなテーマに直面し、この難局を必ずや打破し、継承発展させていかなくてはならない、強い意志が必要である。

そんな共通意識維持の為、次の3つが大事で有ると感じた。

①一人一人の役割を全うする事(担う事)。②地域住民との繋がりを持つ事。③生きる幸せを考える事(命の尊さを考える)。

こんな事を考えながら、同じ階にある「相田みつを」美術館に足を運んでみた。

震災直後ネット上に流れた…うばい合えば足らぬ…わけ合えばあまる…

こんな言葉を何時も心に持ち続けたいものです。

UIA大会にて

株式会社 刷新 石澤 隆志

当日は朝早くから皆様お疲れ様でした。都心の渋滞に巻き込まれ急遽、立川駅から中央線に乗車し、有楽町の国際フォーラムまで、無事に時間までに到着することが出来ました。

『建築界のオリンピック』と呼ばれるUIA2011東京大会、さすがに会場入りすると何か良く分かりませんが、妙に興奮しました。芦原会長は英語で開会式の挨拶を

していましたが、銀座の夜の部での懇親会では、せっかく日本で開催したのだから、日本語で挨拶したほうが良かったと、誰かおっしゃっていましたが、実にその通りだと思います。日本で開催したのですから…それはともかく夜の銀座で大いに盛り上がり皆様と楽しい一日を過ごすことが出来ました。UIA大会準備委員会の一員として役目はちょっと果たせたのかな?ありがとうございました。

■今後の行事予定

12月3日(月)…冬のセミナー 安曇野市堀金 四季の郷 ほりでーゆ~
13:00~「信州の建築家とつくる家 第8集」出版レビュー
16:00~ 技術交流会 優秀賞受賞者発表会
18:00~ 忘年会
12月初旬 「信州の建築家とつくる家 第8集」が発刊されます。

事業報告

8月6日(土) 夏のセミナー(西宿)『3.11以降の建築を考える』

8月27日(土) 第1回まち並みウォッチング(小布施)

10月14日(金) UIA大会準備特別委員会反省会(奈良井宿)

10月15日(土) 第2回まち並みウォッチング(木曾 平沢宿)

編集後記

世界110カ国・地域から5,100人の参加を得て、UIA2011東京大会は幕を閉じました。長野県クラブから多くの会員・賛助会員が参加して、国際色豊かな大会の雰囲気と格調高い多くのプログラムに接することができたことは大変意義深かったです。この大会を通じ、世界で活躍されている建築家等の方々の話を聞き、多くの事を学び、様々な方と接することができ、本当に有意義な時間を過ごさせていただきました。勝山 敏雄

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。

編集人／勝山敏雄 発行所／JIA長野県クラブ 長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内 TEL: 026-232-3897 FAX: 026-232-5303

発行人／赤羽吉人

URL <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/> E-mail jia-naga@jeans.ocn.ne.jp